



園長だより

(52号)

園長 大串 すみゑ

【 来し方 行く末 】

いよいよ、今年過ごしてきた日々を振り返り、これから迎える新しい年の方向を見定める時期となりました。皆様にとって平成26年はどんな年でしたか。

園児にとっては、とても大きく成長し、充実した一年でした。園児たちは話の聞き方がとても上手ですし、取り組む姿勢も熱心です。これは、保護者の皆様の甚大なるご協力を頂いた賜であると感謝致しております。

3回にわたって『心の東京革命』をご紹介致しましたが、どのようにお感じになりましたでしょうか。ご家庭のご協力を頂きながらより良き教育を行って参りたいと思っております。宜しくお願い致します。



藤原義彦



年少組土曜参観

『心の東京革命』 《東京都と心の東京革命推進協議会（青少年育成協会）》

“心の東京ルール7つの呼びかけ” より ③

◎子どもにその日のことを話させよう

親が熱心に耳をかたむけて話を聞いてくれる。子どもにとって話をする楽しさを実感する時です。子どものつらい時の信号をうけとめるのも、常日頃からの会話です。まず話を聞くことから始めましょう。

◎他人の子どもでも叱ろう

「叱る」と「怒る」は、全く違います。「叱る」姿勢のその奥には、「良くなってほしい」という愛情があるはずです。親の言葉より、他人からの一言が身に沁みたことはありませんか。

叱られることで、子どもたちは時と場所に応じた振る舞い、社会のルールを身につけて行きます。

◎先人や目上の人を敬う心を育てよう

人を敬う心を持たない者が、人に敬われることはありません。子どもにとって「敬う」とは、その人を好きになり感謝の気持ちを持つことです。親が人に感謝し敬う心を持てば、その姿は子どもに伝わり、親への感謝を通して人を敬う心が育っていきます。

【先生の報告書より】(年中組)

・今日のピアニカはメリーさんの羊を区切って吹きました。大山先生の「やめ」の合図で綺麗にやめる事が1回目から出来たので、沢山褒めてもらいました。「このクラスはすごく上手。途中で止めるのは難しいのに、お兄さん・お姉さんですね。」と言われ、照れながらも、自信に満ちた顔をしていました。褒められて、更にやる気が出て、私もとても嬉しく思いました。

・今日の避難訓練は、火災時の想定で、いつもとは流れが異なるものでしたが、子どもたちは、放送を良く聞いて、私の指示も聞き逃さず行動ができ、防災頭巾の着用とハンカチで口を押さえる事も迅速でした。ベランダに出た時、緊張感が途切れた子がいましたので、大切な練習では真剣さが必要であると再度伝えました。



年中組リレー参観